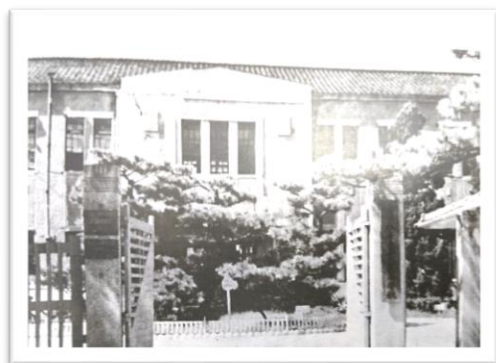


## 5月9日は舟入高校創立記念日です



昭和27年 正門

5月9日 舟入高校は71回目の創立記念日を迎えます。舟入高校の歴史を紐解くと、大正10年(1921年)に広島市高等女学校が国泰寺町に設立されたところからスタートします。この広島市高等女学校は大正15年に現在の場所に移転し、その後昭和17年に広島市立高等女学校、昭和18年に広島市立第一高等女学校と名前を変えた後、昭和20年8月6日の原子爆弾投下により、666名の生徒と10名の教職員の尊い命が奪われました。

昭和23年(1948年)には広島市立第一高等女学校から広島市二葉高等学校と名前を変え、旧広島市立第二高等女学校である広島市白梅高等学校を併合した後、昭和24年(1949年)4月30日に高等学校再編成により広島県広島舟入高等学校として発足しました。そして、生徒が初めて登校した5月9日を「創立記念日」として制定しました。

校訓「おのれに徹して人のために生きよう」は昭和28年(1953年)に第二代校長の外林秀夫先生が制定したものです。現在でも無遅刻の日には「アルルの女」が流れますが、その習慣はこの頃から、また昭和30年(1955年)5月からは「頭脳活動の疲労回復

と集団行動の訓練とを兼ね」て2校

時目と3校時目の間の休憩を20分として行われていた、「業間昭和37年ごろ体操(ラジオ体操)」も約40年にわたり続きました。歴史ある習慣の多くが長年引き継がれているのも舟入高校の特色の一つと言えるでしょう。

平成10年(1998年)に現在の校舎の完成とともに国際コミュニケーションコースの一期生が入学し、昨年(令和元年)は国際コミュニケーションコースの20周年(正確には21年目)と舟入高校の70周年記念行事を行いました。

同窓生や地域の人々に支えていただきながら、舟入高校は昭和、平成、令和と3つの時代にわたって生徒たちの姿を見てきました。70年目を迎えた舟入高校のスローガンは「舟入、動く」です。そして各自の夢の実現に向かって日々切磋琢磨しつつ舟入高校を動かし、新しい歴史を作っていくのは在校生の皆さんです。



舟入、動く